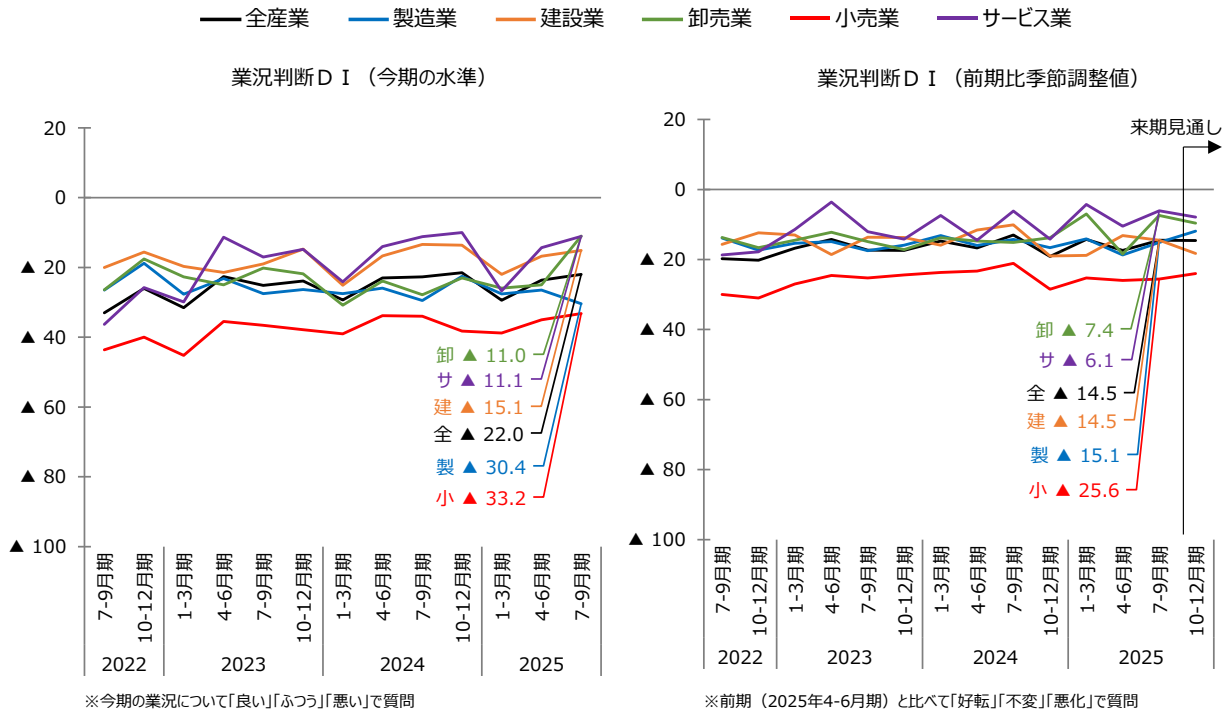


第181回 中小企業景況調査（2025年7-9月期） 中国



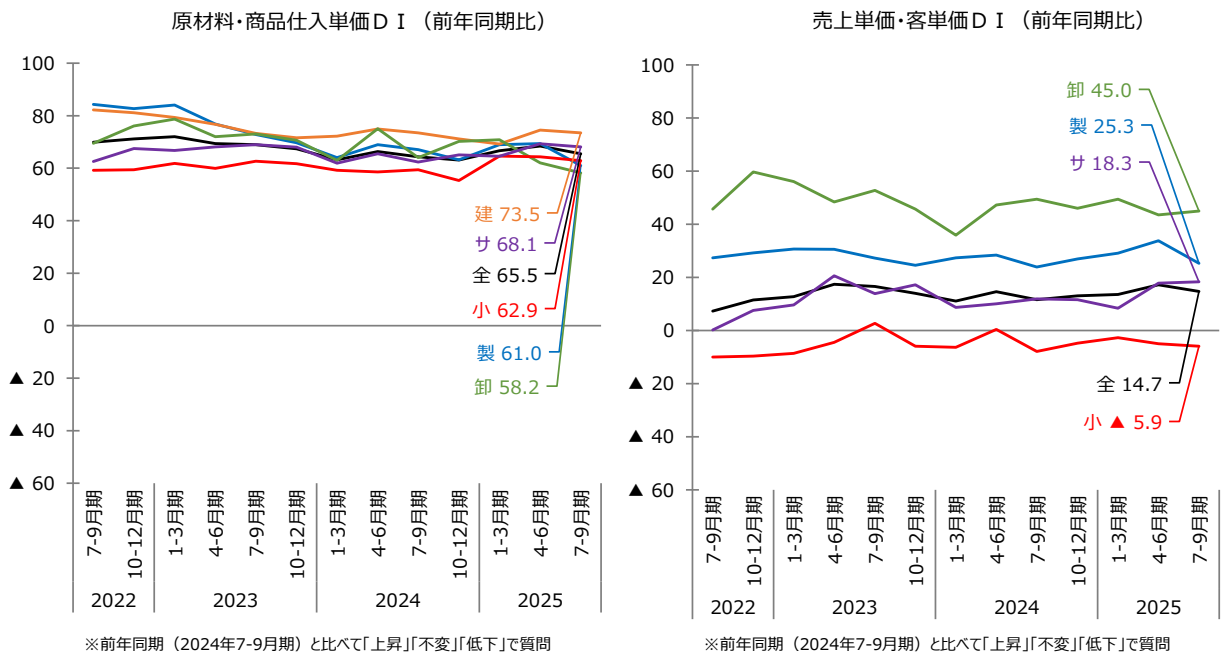
1. 業況感

中国地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2025年4-6月期）より1.6ポイント増の▲22.0と2期連続して上昇した。産業別にみると、卸売業、サービス業、小売業、建設業で上昇し、製造業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より2.9ポイント減の65.5と3期ぶりに低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より2.5ポイント減の14.7と4期ぶりに低下した。産業別にみると、卸売業、サービス業で上昇し、製造業、小売業で低下した。



＜調査概要＞ 調査時点は2025年9月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,826 有効回答企業数：17,956 有効回答率：95.4% うち、中国：1,645企業

※本資料の集計対象の都道府県は、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県です。

第181回 中小企業景況調査（2025年7-9月期） 中国

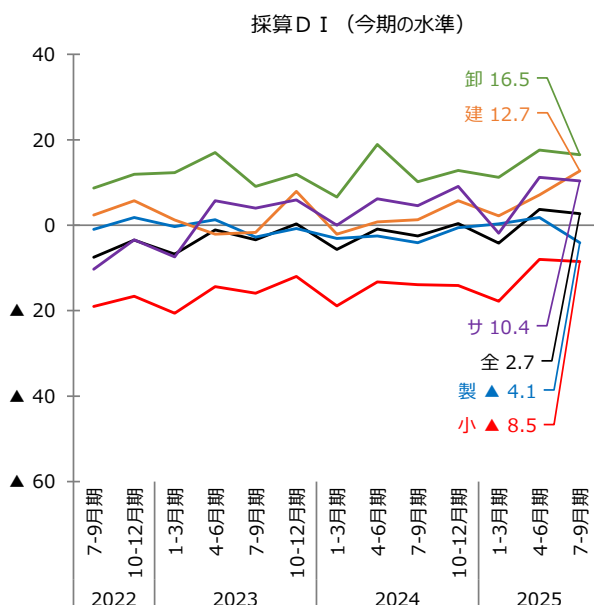


3. 採算

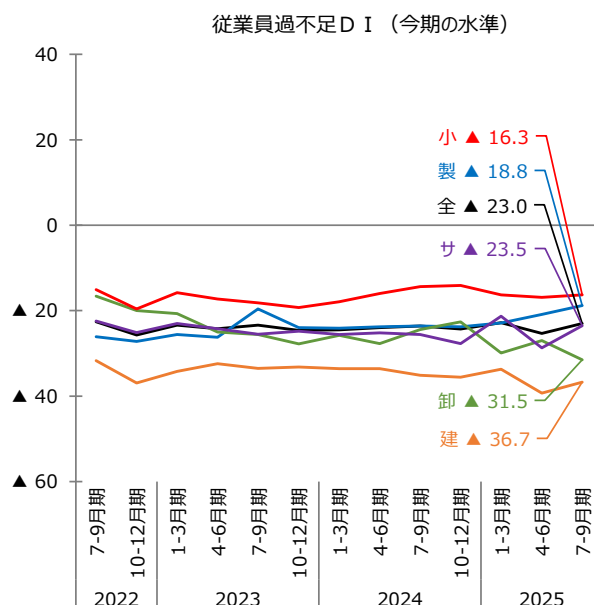
採算DIは、全産業で前期より1.0ポイント減の2.7と2期ぶりに低下した。産業別にみると、建設業で上昇し、製造業、卸売業、サービス業、小売業で低下した。

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より2.3ポイント増の▲23.0と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、サービス業、建設業、製造業、小売業で上昇し、卸売業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5. 中国の中小企業の声

業況判断の背景		業種	
現状	従来からのメイン取引先からの受注量は若干減少気味であるが、その他の取引先が比較的安定しており、業績は概ね安定して推移している。原材料価格の上昇が順調に加工単価に反映できるかどうかが今後の最大の課題。	製造業	他に分類されない金属製品製造業
	省エネの流れから工事は公共・民間とも好調であり、雇用促進もしていきたいが、最近では募集に対して応募が無く、従業員を確保するための工夫が必要と考えている。	建設業	一般電気工事業
	取扱商品の値上げにより売上高は上昇しているが、販売点数は苦戦している。人員不足が負担になっている。	卸売業	酒類卸売業
	今年も暑い日が続き、アイス等の氷菓子等が昨年以上に売れている。その反面、暑さのせいで来客数、食料品の売上、ともに減っており全体的に売上も減少している。	小売業	酒小売業
	猛暑の影響により、写真婚、各種前撮りを顧客が避けた感があり、売上高が伸びず、大変厳しい状況であった。現在、10月以降の顧客獲得に向け従業員全員で、営業活動に取り組んでいる。	サービス業	美容業
見通し	原材料及び光熱費等高騰に伴い、利益は減少し不景気感がある。今後お土産物等観光客向けの開発をし、売上を伸ばしていきたいと思っている。	製造業	パン製造業
	原材料価格や外部人材の外注費は上昇傾向にあるが、現状ではその上昇分を幸いにして価格に反映出来ている。今後も価格に反映することを念頭に営業活動をしていく方針である。	建設業	土工・コンクリート工事業
	人件費を始め、時代に合わせて設備投資を、継続していく必要が有る。付加価値の有る商品を、販売の主役に置き、お客様からの信頼を高めて行く。高粗利も追及する。	卸売業	その他の食料・飲料卸売業
	来店客数が減少している流れはあるが、WEBサイトでの販売が少しずつ増えてきているので上手く活用しながら店売り分をカバーしていきたいと考えている。内装工事を伴う家具（別注）は今後もSNS発信したい。	小売業	家具小売業
	売上は好調だが人件費が多く経費も膨れ上がり、8月決算では赤字で着地予定。退社するスタッフがいるため、人件費等が減少し来期の状況は好転の予測。繁忙期の人手不足は外注で補う等、工夫をして来期を乗り越える。	サービス業	社会保険労務士事務所

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)